

プレカット ニュース

一般社団法人 全国木造住宅機械プレカット協会

東京都千代田区永田町2丁目4番3号永田町ビル6階

TEL 03 (3580) 3215 FAX 03 (3580) 3226

<http://www.precut-kyokai.com>

新年のご挨拶

一般社団法人全国木造住宅機械プレカット協会
会長 櫻井秀弥

新年明けましておめでとうございます。皆様方には、常日頃、当協会の事業運営に格別のご支援、ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、昨年は、4月の消費税引き上げに向けた駆け込み需要とその後の反動減により景気は停滞しましたが、年末になってようやく回復基調がみられ始めた一年でありました。住宅着工の動向については、消費税引き上げに対する緩和措置はありましたが、反動減の影響は大きく、季節調整済年率換算値では90万戸台で推移しているのが現状です。

このような中で、昨年のプレカット加工業の業況をみますと、住宅需要の動向に大きく影響を受け、厳しい業況に転じましたが、一方、木材利用に関しては、国産材資源が充実しつつある中であって、公共建築物への木材利用の推進や木材利用ポイント事業など各般の積極的な政策を受け、四号建築物ばかりでなく、各地で大型商業施設や公共施設等の中大規模木造建築物がづくられ始めるなど、プレカット加工業に対しては新たな需要分野への対応も期待されています。

特に、木材利用ポイント事業は、プレカット工場は木材供給事業者として、主要構造部材の供給を担っていることから、当協会では、合法木材供給事業者である会員工場を対象に認証のためのデータ整備等を行い、制度の円滑な実施に協力いたしました。

また、木造住宅の品質確保のためには、プレカット加工図を作成するCADオペレーターの工務店等に対する顧客対応能力向上が重要になっています。当協会では、プレカット加工業に対する技術支援の取り組みとして、プレカットCAD技術者研修を実施しており、その修了者を対象として、昨年からのプレカットCDA技術者認定登録を実施しています。これは、当協会の「プレカットCAD技術者基準」に基づきプレカットCADオペレーターの技術を認定するもので、プレカット工場に対する新たな取り組みとして期待されています。これと併せて、一般流通材を利用した非住宅木造建築物のプレカット加工図作成や使用資材選別に必要となる技術支援も行います。

当協会は、品質の確かなプレカット部材の生産、供給を目的として会員工場のプレカット加工技術の向上をとともに、全国住宅プレカット部材共済会によるプレカット部材瑕疵保証事業の充実強化を図りつつ、安全・安心な住環境の創造で顧客満足の得られるような木造建築物の提供にお手伝いできることを願っています。

本年が住宅産業・木材産業にとって飛躍の年になりますよう、そして皆様方にとってすばらしい一年となりますように祈念申し上げますとともに、皆様方のご支援、ご協力をお願い申し上げます、新年のご挨拶といたします。



木材利用で街に第二の森林を

— 第49回全国木材産業振興大会で決議 —

第49回全国木材産業振興大会は、平成26年10月15日に「新たな木材利用への挑戦で木材産業の創造的再興～木材利用で街に第二の森林を～」をメインテーマとして、東京都千代田区の「東京国際フォーラム」において、来賓として西川公也農林水産大臣、海堀安喜国土交通省大臣官房審議官、山本隆東京都産業労働局長初め多数のご来賓の出席をいただき、全国から1,200名の参加のもとに開催されました。

大会の第一部では、次のとおり大会宣言が満場一致で決議され、引き続き、戦後長らく続いてきた木材から非木材への流れを転換し、木材を優先して使う社会の実現を目指すため全国木材組合連合会と全国森林組合連合会が共同して行動を行っていくことを内容とする共同宣言「ウッドファースト社会を実現し、日本の森林を守るために」を満場一致で決議され、吉条良明全木連会長と佐藤重芳全森連会長が宣言書に署名し、両会長の決意表明がなされました。

また、第二部においては、放送作家・小説家である百田尚樹氏を講師として「日本人の誇り」と題した記念講演が行われました。

第三部の表彰式では退任団体長、木材産業功労者、協同組合事業功労者の表彰が行われ、受賞者に対し長年に亘る功績が賞賛されました。

— 宣 言 決 議 —

- 一 木材利用の大幅な拡大を実現するため、森林・林業・木材産業関係者が一体となった木材利用拡大運動を進めよう
- 一 新たな木材需要拡大への支援対策・予算の実現と充実に取り組もう
- 一 高層建築物、商工業施設をはじめくらしにかかわるあらゆる分野に木材利用を創出するため、CLTなどの新しい技術の開発・活用等の取り組みを進めよう
- 一 東京オリンピック・パラリンピック関連施設への木材利用を実現しよう
- 一 木材産業の成長産業化を目指して、効率的な生産・加工・流通体制の構築、税制度の確立、木材貿易の適正推進、間伐材・未利用材の木質バイオマス発電利用、新規分野の開拓促進に取り組もう
- 一 JAS製品、合法木材・木製品、乾燥材など、安全安心で品質・性能の確かな木材の供給や担い手の育成確保に取り組もう

プレカットCAD技術者認定登録開始される

当協会では、平成24年度から、当協会の「プレカットCAD技術者基準」に基づき、CADオペレーターの皆さんを対象として、プレカットCAD技術者研修を各地で実施してきましたが、このたび、「プレカットCAD技術者認定実施規程」を定める等、研修の修了者等を対象として認定登録の準備ができたことから下表のとおり申請受付を開始しました。会員工場に所属する研修修了者等の皆様におかれましては、登録申請料は無料ですので、登録申請をお待ちしています。

研修実施年度	申請資格者	登録資格	申請受付期限	登録有効期間
24年度	平成24年度プレカットCAD技術者研修修了者	プレカットCAD技術者二級	平成27年2月28日	平成31年3月31日
25年度	平成25年度プレカットCAD技術者研修（一級コース）修了者	プレカットCAD技術者一級	平成27年3月31日	平成32年3月31日
	平成25年度プレカットCAD技術者研修（二・三級コース）修了者で修了考査の得点が基準点に達している者	プレカットCAD技術者二、三級		

協会会員工場基礎調査結果について(第3回)

— 年間総生産量・AQ製品生産量調べ —

調査対象年月：平成25年12月
調査対象工場数：42工場

	10,000坪未満	10,000坪以上 20,000坪未満	20,000坪以上 30,000坪未満	30,000坪以上 50,000坪未満	50,000坪以上	合計
総生産量 (単位：100坪)	62、81、 90、95	120、137、 140、150、 154、159、 190	210、225、 260、261、 270	310、312、 330、335、 338、380、 420、420、 430、432、 450、450、 453、456、 480、495	599、601、 668、841、 907、1,200、 1,422、 1,517、 1,519、 3,830	22,199
平均	82.0	150.0	245.2	405.7	1,310.4	528.5
(前年平均)	(71.4)	(146.6)	(247.3)	(390.8)	(1,465.3)	(438.4)
AQ製品生産量 (単位：100坪)	0、0、0、 0	0、0、0、0、 0、1、136	0、0、0、 20、150	0、0、0、0、 0、0、0、0、 0、8、33、 68、200、 330、400、 453	0、0、0、0、 0、0、0、3、 64、288	2,154
平均	0	19.6	34.0	93.3	35.5	51.3
(前年平均)	(22.0)	(14.7)	(13.0)	(73.8)	(5.6)	(31.7)
AQ製品生産比率	0	13.0%	13.9%	23.0%	2.7%	9.7%
(前年AQ製品 生産比率)	(30.8%)	(10.0%)	(5.3%)	(18.9%)	(0.4%)	(7.2%)

◇簡単なコメント

- (1) 会員42工場を対象とした調査によると、平成25年の1工場当たり年間平均生産量は、52,850坪で、1棟当たり40坪換算すると約1,320棟に相当し、前年の平均生産量に比べると、約2割の増加になっている。これは、本年4月からの消費税増税前の駆け込み需要が、昨年の夏以降顕在化し、多くの工場ではフル稼働の状態が続いたためである。階層別に見ると、50,000坪以上の工場では、平均生産量は10%低下したが、それ以外の階層では総じて増加しており、生産量の階層別に見た工場数の動向は1工場当り生産量の増加により上位の階層へシフトしつつあるとみられる。
- (2) 総生産量に占めるAQ製品の生産比率は9.7%で前年に比べて2.5ポイント上昇した。階層別にAQ製品の生産量を見ると、前年まで生産比率が高かった10,000坪未満の階層においては生産の実績はなく、10,000坪以上の階層では全て増加した。特に、木材利用ポイント事業の実施、長期優良住宅の普及等により消費者が品質の高い住宅を求める傾向は強くなっており、この中で国産材を中心とした使用部材にも関心が高まり、AQ認証材の生産の増加につながっているのではないかと推測される。

プレカット業況調査(平成26年11月期)

一般社団法人全国木造住宅機械プレカット協会調べ (回答率: 55%)

設 問	回答率 (%)			DI	前回 DI
	(1)	(2)	(3)		
1-1 今月の受注額は3ヶ月前と比べて如何ですか。 (1)好転(5%以上の伸び) (2)変わらず(±5%未満) (3)悪化(5%以上の減)	22	50	28	- 6	- 10
1-2 3ヶ月後の受注額をどう予測しますか。 (1)好転(5%以上の伸び) (2)変わらず(±5%未満) (3)悪化(5%以上の減)	0	50	50	-50	- 15
2-1 貴社の坪あたり平均総加工単価はいくらですか。	答: 6,100円(対前回調査- 20円)				
3-1 今月の製品加工単価は3ヶ月前と比べて如何ですか。 (1)好転(5%以上の伸び) (2)変わらず(±5%未満) (3)悪化(5%以上の減)	0	94	6	- 6	- 4
3-2 3ヶ月後の製品加工単価をどう予測しますか。 (1)好転(5%以上の伸び) (2)変わらず(±5%未満) (3)悪化(5%以上の減)	0	72	28	- 28	- 21
4-1 今月の資材(製品)入手状況は如何ですか。 (1)容易 (2)変わらず (3)困難	25	69	6	+ 19	+ 21
4-2 3ヶ月後の資材(製品)入手状況をどう予測しますか。 (1)容易 (2)変わらず (3)困難	13	62	25	- 12	+ 14
5-1 今月の収益は3ヶ月前と比べて如何ですか。 (1)良い(5%以上の伸び) (2)変わらず(±5%未満) (3)悪い(5%以上の減)	13	53	34	- 21	- 32
5-2 3ヶ月後の収益をどう予測しますか。 (1)好転(5%以上の伸び) (2)変わらず(±5%未満) (3)悪化(5%以上の減)	0	38	62	- 62	- 25

* DI = (1)の% - (3)の%、+の数値が大きいほど好況、-の数値が大きいほど不況。

* 前回調査: 平成26年8月

◇簡単なコメント

11月の各設問のDIのうち、資材関係以外は総じてマイナスになっている。特に、受注額、加工単価、収益の3ヵ月後の予測については、好転とする回答は0であり、消費税引上げによる反動減の影響が長引き厳しい状況を反映しているとみられる。また、加工単価も下落に転じる可能性があるが、それに加えて、円安の影響等により資材の入手環境もタイトになりつつあることが心配される。

1. 受注額のDIは-6で前回調査時(平成26年8月期)に引き続きマイナスで推移しており、消費税引き上げによる建築着工数の減少が大きく影響しており、厳しい状況が続いていると読み取れる。また、3ヵ月後の予測のDIは、-50と大きく悪化する予測であり、受注額の好転はなかなか望めそうにない状況である。
2. 3ヵ月前と比較した製品加工単価のDIは-6で、これを反映して、平均総加工単価は6,100円と3ヵ月前に比べて20円低下したが、比較的落ち着いた動きと言えるであろう。しかし、3ヵ月後の製品加工単価のDIは-28で下落基調に転じるおそれが懸念される。
3. 資材入手状況のDIは+19と、前回同様、入手環境は軟調に推移している。しかし、3ヵ月後の予測においては-12であり、資材メーカーの出荷調整、円安の進行等により、量、価格の量面でタイト感がみられはじめるのではないかと予想される。
4. 3ヵ月前と比べた収益のDIは-21になり、前回調査時の3ヵ月後の収益予測に沿うものになっている。3ヵ月後の収益の予測は-62であり、厳しい業況が心配される状況になっている。